

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要					
建物名称	研究総合棟新築工事(仮称)				
建設地	新潟県新潟市北区浜松町3500番地				
用途地域	都市計画区域内				
建物用途	事務所,				
竣工年	2020年6月 竣工				
敷地面積	941,242.00 m ²				
建築面積	1,798.85 m ²				
延床面積	5,760.61 m ²				
階数	地上4F				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2019年2月15日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{40.2}{35.3} = 1.1$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 2.3		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	1.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 3.1		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.2
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 2.7		節水	LR2.1.1	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 1.5		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	1.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
地震への取り組みとして、耐震Aクラスとしている。 大きな補修をすることなく重要な機能が確保できるようにしており、災害時における建築物の機能維持ができる。 外壁に断熱性の高いALC版を採用、外皮は断熱施工することにより建物の熱負荷低減している。 自然採光システムにハイサイドライトが計画されている。					

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	研究総合棟新築工事(仮称)	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市北区浜松町3500番地	構造	S造
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員	251人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 竣工	評価の実施日	2019年2月15日
敷地面積	941,242 m ²	作成者	田部 伊紗美
建築面積	1,799 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	5,761 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能 5

Q1 室内環境 3

Q3 室外環境(敷地内) 2

LR1 エネルギー 1

LR2 資源・マテリアル 2

LR3 敷地外環境 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.9

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
化学汚染物質による空気室汚染を回避するため、F☆☆☆☆を採用、自然換気や、禁煙等室内の空気を健全に保てるようにしている。地震時の内部設備保護として耐震クラスA。外壁に断熱性の高いALC版を採用、外皮は断熱施工することにより建物の熱負荷低減している。 太陽光パネルを採用し、自然エネルギーの活用に向けた取り組みをしている。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
快適な室温が実現できる機器設定にしており、空間の明るさを確保する照明計画としている。化学汚染物質による空気室汚染を回避するため、F☆☆☆☆を採用、自然換気や、禁煙等室内の空気を健全に保てるようにして	快適性向上のため、広さ感、開放感がある天井高とリフレッシュルームを設けている。地震時の内部設備保護として耐震クラスAとしている。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁に断熱性の高いALC版を採用、外皮は断熱施工することにより建物の熱負荷低減している。太陽光パネルを採用し、自然エネルギーの活用に向けた取り組みをしている。	特になし。	自動車利用による交通負荷を抑制するため、駐輪場や駐車スペース等配慮している。光害対策として、光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される